

ICD-11の最近の動向

飯森 眞喜雄¹⁾，松本 ちひろ^{1,2)}，丸田 敏雅¹⁾

ICD-11は2015年完成が予定されており，これに向けて改訂作業が進められている．本稿ではICD-11作成の最新動向に加え，関連するDSM-5の情報と，今後ICD-11作成に向け予定されているフィールドトライアル参加の機会について紹介する．

<索引用語：ICD-11，DSM-5，フィールドトライアル，Global Clinical Practice Network>

はじめに

ICD-11は2015年完成が予定されており，これに向けて改訂作業が進められている．本稿ではICD-11作成の最新動向に加え，関連するDSM-5の情報と，今後ICD-11作成に向け予定されているフィールドトライアル参加の機会について紹介する．

I. ICD-11の大分類

ICD-11とDSM-5の大分類の大枠はおおむね協調がはかられている．2013年の完成・出版が予定されているDSM-5の大分類は完成しており，表1はICD-11の2012年5月時点の大枠との比較となっている．なお，今回の大分類はICD-11およびDSM-5から呼称の大幅な変更が予定されている章もあり，どちらも英文のまま紹介する．大枠が完成しているDSM-5とは対照的に，ICD-11において，睡眠障害，性機能不全，認知障害，パーソナリティ障害，性的倒錯，虚偽性障害の扱いは未定となっている．

II. 各障害群の概要とDSM-5との比較

ICD-11，DSM-5ドラフトについての詳細はす

で報告されており^{1,2)}，ここでは把握されている相違点に焦点を当てるものとする．

1. Schizophrenia spectrum and other primary psychotic disorders (統合失調性スペクトラム障害および一次性精神病) について

DSM-5，ICD-11ともに「スペクトラム」の呼称を採用予定である．これは「自閉症スペクトラム障害」の用語に見られるように，統合失調症における多様な病態の連続性を考慮した結果と思われる．DSM-5ドラフト作成当初，採用が検討されていたattenuated psychosis syndromeに関しては，ICD-11ではもともと採用予定がなかったが，DSM-5も最終版の作成段階で採用をとりやめている．

また，ICD，DSM両システムにおいてこれまで使用されてきた統合失調症の伝統的な亜型分類（緊張型，妄想型，解体型）の廃止が提案されている．ほぼ最終版が完成を迎えたDSM-5では，亜型廃止の代わりに，hallucinations, delusions, disorganized speech, abnormal psychomotor behavior, negative symptoms, impaired cognition, depression および mania の項目に関して重

著者所属：1) 東京医科大学精神医学講座

2) 上智大学総合人間科学研究科心理学専攻

表1 ICD-11 と DSM-5 における障害群の大分類

ICD-11 における大分類	DSM-5 における大分類
Neurodevelopmental disorders	Neurodevelopmental disorders
Schizophrenia spectrum and other primary psychotic disorders	Schizophrenia spectrum and other primary psychotic disorders
Bipolar and related disorders	Bipolar and related disorders
Depressive disorders	Depressive disorders
Anxiety and fear-related disorders	Anxiety disorders
Disorders specifically associated with stress	Trauma- and stressor-related disorders
Obsessive-compulsive and related disorders	Obsessive-compulsive and related disorders
Dissociative disorders	Dissociative disorders
Bodily distress disorders	Somatic symptom disorders
Feeding and eating disorders	Feeding and eating disorders
Elimination disorders	Elimination disorders
Disruptive, impulse control, and conduct/dissocial disorders	Disruptive, impulse control, and conduct disorders
Disorders due to substance use	Substance use and addictive disorders
Behavioral addictions	— (対応障害群なし)
Sleep disorders	Sleep-wake disorders
Sexual dysfunction	Sexual dysfunction
Neurocognitive disorders	Neurocognitive disorders
Personality disorders	Personality disorders
Paraphilias	Paraphilic disorders
Factitious disorders	— (対応障害群なし)
Other mental and behavioral disorders	Other disorders
— (対応障害群なし)	Gender dysphoria

ICD-11 の大分類は 2012 年 3 月時点, DSM-5 は同 9 月時点の資料より抜粋.

症度評価を行うことが提案されており, ICD-11 がこれに対応する形での診断方式を採用するのが今後の動向が注目される. なお, 病態の記述と関連し, ICD-11 では「持続性」「エピソード性, 欠損は進行性のもの」「エピソード性, 欠損は安定しているもの」など経過コードを設ける提案が提出されている.

2. 気分障害について

ICD, DSM とともに, 既存の診断分類システムでは「気分障害」としてまとめられていた双極性障害とうつ病性障害に, 個別の章が与えられる予定である. DSM における双極性障害は従来から I 型, II 型の区別があったが, ICD-11 はこの採用を検討中である.

DSM-5 においては, 改訂のたびに検討されてきた月経前不快気分障害が付録から本体に掲載さ

れることが, また児童・思春期における双極性障害の過剰診断の懸念から提唱された disruptive mood dysregulation disorder が採用されることが決定している. また, 混合性不安/抑うつ (不安障害, うつ病どちらも単独では閾値に満たない) は, DSM-5 においては本体ではなく付録への収録が決定している. ICD-11 においてもこれらの障害は検討されてきたが, 最終的な判断には至っていない.

3. 神経症性障害, ストレス関連障害, および身体表現性障害について

ICD-10 においてこの障害群では非常に幅広い病態が扱われていたが, ICD-11 ではこれらはより細かな障害群に分類される予定である. 現在のドラフトでは, 全般性不安障害, パニック障害, 広場恐怖, 特定の恐怖症, 社交恐怖, 疾病不安障

害（旧称「心気症」を含む）、分離不安障害、選択的緘黙が、「不安および恐怖関連障害」への包含を検討されている。不安と恐怖を主訴とする障害群と位置付けることができよう。

ストレスの病態への影響が明確な障害群としては、「ストレス関連障害」が挙げられ、この中には外傷性ストレス障害、遷延性悲嘆障害、適応障害、反応性愛着障害、disinhibited social engagement disorder（ICD-10における「脱抑制愛着障害」に相当）、quasi-autism following profound institutional deprivationが含まれる予定である。またICDでは伝統的に急性ストレス反応が疾患単位として認められていたが、これは疾病ではなくストレスへの正常な反応との見解から、ICD-11では疾病コードが与えられない見通しである。

強迫を主訴とする障害群は「強迫および関連障害」としてまとめられる予定であり、従来の強迫性障害、拔毛癖に加え、hoarding disorder, skin picking disorder, その他反復性習慣障害と、ICD-10では心気障害に内包されていた身体醜形性障害が含まれる予定である。

解離性（転換性）障害に関しては、「解離性障害」として、知覚運動性のもの、認知情動性のもの、混合性のものの3種に分けて扱う方針が検討されている。

4. Bodily distress disorders（身体苦痛性障害）について

最終的な用語の使用に関してICD-11では未確定であるが、ICD, DSM共に、従来のsomatoformの用語を廃止する方針では一致している。これは、somatoformの表現が非精神科医には馴染みが薄く、またこの呼称がスティグマにつながりかねないとの懸念からである。DSM-5ではsomatic symptom disordersの呼称が確定しており、ICD-11では身体苦痛性障害（bodily distress disorders）の用語が検討されている。基本的には身体面での症状が主訴である病態を対象としており、軽度-中等度-重度の重症度による分類が検討され

ている。

5. Feeding and eating disorders（哺育および摂食障害）について

ICD-11では、発症の時期を問わず哺育と摂食に関する障害がまとめられ、「哺育および摂食障害」として扱われる予定である。代表的な摂食障害である神経性無食欲症、神経性過食症に加え、幼児期・小児期における異食症もこの障害群内で扱われることとなる。またこの障害群においては新たに、combined anorexia and bulimia nervosa, binge eating disorder, avoidant/restrictive food intake disorder, regurgitation disorderの追加が検討されている。

その他の障害群については詳細を検討中である。

Ⅲ. フィールドトライアル参加への機会

今後のフィールドトライアル展開に際し、WHOではGlobal Clinical Practice Network³⁾の構築を進めている。これは希望者にオンライン上でネットワークに参加・登録してもらい、登録の際に申請した専門分野や興味や関心のある領域に応じ、ドラフトに対するフィードバックやフィールドトライアルへの参加案内が随時メールで送られてくるというものである（例えば、児童・思春期に関する内容のフィードバックを、児童・思春期に接する機会が多いと申請した臨床家に求めるなど）。参加者募集の告知は関連学会（日本精神神経学会、精神科診断学会および日本児童青年期精神医学会など）を通して行われている。

ICD-11作成に際し、WHOは多文化かつ多言語な改訂プロセスを重視している。英語による完成版を邦訳するのではなく、作成段階から英語圏以外からの意見を積極的に取り入れていく姿勢を強調しているのである。本ネットワークも日本語での参加を前提としており、参加者への英語面での負担は最小限に抑えられる予定である。

また参加者への負担軽減と幅広い参加を両立するため、本ネットワークからの協力要請状況をモ

ニタリングし、各個人へのコンタクトは毎月1回に抑えること、またオンライン上のアンケート回答などに要する時間は1回につき20分以内を目安とすることなどが本ネットワークの構想に盛り込まれている。

おわりに

最後に、このGCPNに日本からも多くの方々に参加していただき、ICD-11がより適切な疾病分類になるようにご協力を願いたい。

文 献

- 1) 丸田敏雅, 松本ちひろ, 飯森真喜雄: ICD-11 作成の最新動向. 臨床精神医学, 41; 521-526, 2012
- 2) 松本ちひろ, 丸田敏雅, 飯森真喜雄: DSM-5 作成の最新動向. 臨床精神医学, 41; 527-533, 2012
- 3) 臨床実践グローバルネットワーク (Global Clinical Practice Network) 日本語版 (http://kuclas.qualtrics.com/SE/?SID=SV_0Hghh4oCC87fQw&SVID=Prod & Q_lang=JA, Cited on September 10, 2012)

Recent Progress of the ICD-11

Makio IMORI¹⁾, Chihiro MATSUMOTO^{1,2)}, Toshimasa MARUTA¹⁾

1) *Department of Psychiatry, Tokyo Medical University*

2) *Department of Psychology, Graduate School of Human Sciences, Sophia University*

The ICD-11 is being developed for publication in 2015, while another important diagnostic classification system, the DSM-5, is being finalized and prepared for publication in 2013. This paper provided an overview of the revision process and also the current status of the drafts of both systems. In addition, the Global Clinical Practice Network, an online network created by the WHO for clinicians throughout the world to participate in the revision efforts for the ICD-11 by reviewing the proposals, providing feedback on them, and participating in field trials, is introduced.

< Authors' abstract >

< **Key words** : ICD-11, DSM-5, field trial, Global Clinical Practice Network >
